法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-12-27

マス・メディアと意味の生産 : マレーシアにおけるジェンダー(上)

SAGARA, Go / ヨシムラ, マコ / サガラ, ゴ / 吉村, 真子 / YOSHIMURA, Mako / 相良, 剛

(出版者 / Publisher)
法政大学社会学部学会
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
社会志林 / Hosei journal of sociology and social sciences
(巻 / Volume)
49
(号 / Number)
3
(開始ページ / Start Page)
18
(終了ページ / End Page)
35
(発行年 / Year)
2003-03
(URL)
https://doi.org/10.15002/00015236

マス・メディアと意味の生産：マレーシアにおけるジェンダー（上）[1)]

吉村真子　　相良　剛[2)]

〈目次〉

はじめに
1　マス・メディア，ジェンダー，意味の生産
2　メディアにおける女性とジェンダー・イメージ
(1)　マレーシアにおける女性
(2)　メディアにおけるジェンダー・イメージ：マレーシアのケース
(a)　TV
(b)　映画　（以上，今号）
(c)　雑誌　（以下，次号）
(d)　広告
3　マレーシアにおける新聞とジェンダー
(1)　マレーシアにおける新聞
(2)　新聞における女性の参加と経営
(3)　「女性欄」
(4)　女性の活動に関する新聞報道
(5)　女性に関する記事の具体的ケース
(6)　新聞における女性の取り上げ方の問題
おわりに
注
参考文献
英文目次と要約
謝辞

はじめに

メディアは，人々の認識や考え方，価値観に大きな影響力を持ち，その点で，社会における重要なイデオロギー的な役割を果たしている。マス・メディアのあり方や生産物によって，その社会のジェンダーのあり方，平等や公正さなど，社会にお

ける男女の構造的な不平等が生み出されたり，再生産されたりする。女性は，男女間の不平等や差別・偏見について認識するとは限らず，一般的に，男性への従属を既成事実として受けとめることも少なくない。そうした構造の中で，マス・メディアが，ジェンダーのイメージをどのように伝えていくかは，社会の中での意味の生産や再生産において重要であり，メディアの存在や果たす役割は無視できないのである。そうしたメディアの果たす役割を，「意味の生産のプロセス」（Gallagher, 1981）として，誰がどのように，どんなものを生産物として出していくのかを検証することは大切である。

こうしたフェミニズムの視角をコミュニケーションの議論に適用した研究として，欧米においては，Allen and Rush（1989），Brown（1990），Carter and Spitzack（1989），Daly（1984），Gamman and Marshmount（1989），Pribram（1988）などがあるが，東南アジア，とくにマレーシアについてはそうした研究は非常に少ない。開発途上国においてメディアの果たす役割は，欧米などの先進工業国とも異なり，とくにジェンダーについては，社会における女性の位置付けなどから具体的な議論が求められる。

マレーシアは1980年代以降，急速な経済成長を遂げた開発途上国である。マレーシアは，マレー系，華人，インド系，その他のマルチ・エスニック（多民族）社会であり，さまざまな宗教，言語，文化，慣習が共存している。多数派のマレー系はイスラム教徒である。女性は家にいることが望ましいとされるイスラム国もあるが，マレーシアでは労働力不足への対策から，女性も社会で働くことが奨励されている。マレーシアには，女性の閣僚もおり，その活躍は報道でもしばしば取り上げられ，女性の社会参加の先進ぶりも強調されるが，他方で，アジア社会の伝統的な価値観も依然として社会に存在する。そうしたマレーシアにおいて，ジェンダーの観点からマス・メディアとその役割について考察することは重要である。

本論文では，マレーシアのマス・メディアと，マス・メディアにおけるジェンダーのイメージについて論じることを目的とする。まずマレーシアにおける女性の社会進出と置かれている状況にふれた上で，マレーシアのTV，映画，雑誌，広告などでのジェンダー，とくに女性の扱われ方について議論し，なかでも新聞とジェンダーについて，新聞報道における女性の参加（ジャーナリスト，新聞社スタッフ，など），経営，「女性欄」，女性を扱う記事と女性のイメージ，女性に関する効果的な報道，ジェンダーの取り扱い，などを，具体的なケースを挙げながら，議論していく。

その際，メッセージや意味の生成という点において，いかにマス・メディアがジ

ェンダーのイメージを生み出すか，について，あわせて議論したい。なおこの論文の議論は，1999年から2001年にかけてマレーシアでおこなった筆者の共同研究調査（ジャーナリストへの面接調査，資料収集など）の成果と分析を中心としている。

1　マス・メディア，ジェンダー，意味の生産

マス・メディアは，ニュースや考えを伝え，広めていく役割をもつ。しかしながら，マス・メディアは鏡のように社会をそのまま映し出すものではない。マス・メディアは現実を伝えるフィルターの役割をもち，現実の一部分だけを切り取り，そして特定の伝え方を採用することで，伝える内容に何らかの意味を与えるのである。実際，報道のされ方によっては別の意味をもつ場合もあるし，そもそも何をとりあげ，何をとりあげないかという選択の段階ですでに，重要性の価値判断を下している。メディアが重要と考えるものは報道され，社会に認識されるが，メディアが取り上げないものは認識されることはない。マス・メディアは，物事に対する認識を作り出し，「価値基準」を提示し，社会の文化的価値を規定していくのである。

このように，メディアは社会においてイデオロギー的な役割を果たしている。メディアは，女性の地位向上に役立つような社会的な価値観を広めることもあるが，女性の構造的不平等がある現状を肯定したり，新たなる不平等を生み出したりする。それゆえ，社会におけるジェンダーをめぐって平等や公正を議論するためには，メディアの役割やメディアが生み出す意味や価値について視野に入れる必要があるのである。

女性は，自らの劣位や従属性を歴史的に今までずっとそうであったという既成事実として受け入れがちである。伝統的に，女性は家庭で家事・育児をして，男性は外で仕事をするものとされてきた。女性が社会や家庭などで疎外されることによって，男性の手に権力や金銭が集中していくのである。そして女性のかかえる問題は，男が主導して作られている社会では重要とはされないために，社会的な問題として認識されることもなく，そのために，女性自身の喪失感もないのである。

女性が疎外されるのは，政治，経済のみならず，文化面でも同様である。コミュニケーション産業や同産業が発信するものは，女性を従属的な役割におとしめることもある（Gallagher, 1981 : 16－17)。またマス・メディアを産業やビジネスとしてみる際に，社会経済システムの中の文化的プロセスや文化的実践として，また部門内の経済的な決定において，ジェンダーの視点を持たない場合には，産業内にもジェンダー・バイアスを構造的にかかえ，ジェンダー・バイアスを生み出す構造を

改善することは難しい。

女性とメディアとの関係を考える際に，二つの考え方がある（Gallagher, 1981: 22)。第一は，女性・男性の態度，自己認識や社会認識，社会的価値などの形成・発展に対するメディアの影響を検討することが必要だというものである。これは，とくにジェンダーに関してどう改革していくかといった点を考え，私営であれ公営であれ，メディアがすでに発展した国々の政治的，経済的状況に対応している。第二は，平等主義を推し進め，女性の状況を改善するためにメディアを積極的に活用する方法を探すべきとするものである。これは，今後の戦略の展開を考え，メディアがまだあまり発達していない，もしくは政府の規制が強い国々において有効な考え方である。

メディアは，大きな影響力をもっているが，現状に対する関わり方は一様ではない。理想的なモデルや適切な行動規範を提示し，奨励することによって，社会変化をうながすことができる反面，伝統的な価値観や規範，現状を肯定することによって，現状を維持することもできる。こうしたメディアによる，社会における意味の生産や再生産は，社会を変えたり，現状を維持したりする機能をもってくるのである。

開発途上国において，そうした機能は異なった働きももつ。国によっては，政府の政策は権威主義的であり，開発の名の下に，メディアも管理・規制されている場合も少なくない。メディアが公的な管理の下にある場合は，メディアのあり方やメッセージの内容に政府の政策や方針が大きな影響力をもつ。政府のプロパガンダをそのまま発信したり，開発，経済活動，消費などに人々の参加を誘導したり，政府の政策を補強する役割を持つのである。メディアにおける女性やジェンダーの描かれ方や位置付けも，政府の政策や計画によって左右されることになる。

また開発途上国の場合，メディアと社会との間の距離は，物理的にも，心理的にも大きい。なぜなら，主要なメディアは，都市部に拠点を置き，都市型の文化や価値を中心とした商業主義，消費文化，生活スタイルなどを発信し，広めていくが，その受け手は農村部に大勢存在する。そして，そうした農村部の比重が，開発途中国では大きいからである。そうした発信者と受け手との関係を考えると，情報の伝達は単純で直接的なものとなりえない。

このように，メディアは，基本的な価値や文化をもつ社会的な決まりを生み出し，維持する。文化は社会における「意味」を生み出し，ジェンダーやその役割の基本的概念を規定する。「意味」の生産プロセスにおいて，文化面で女性を外部化，マー

ジナル（周縁）化することは，女性を社会において疎外し，女性に従属的存在を自然なものとして受容させることにつながるのである。女性は，社会における文化，とくに文化が生み出し，複製し，再生産していく「意味」について，また，そうしたメディアの役割とメカニズムについて，認識する必要がある。

2　メディアにおける女性とジェンダー・イメージ

(1)　マレーシアにおける女性

1970年代以降，マレーシアの工業化にしたがって，女性の労働参加は増加した。就業人口における女性比率は，1957年の31%から1970年36%，1980年39%，1995年48%と伸びた。そして，女性労働者に占める賃金雇用の比率は，1970－90年に39%から63%に増えており，女性労働者の半分以上が賃金雇用で働いているのである。

女性の雇用は，おもに製造業部門とサーヴィス部門である[3)]。政府統計によると[4)]，女性がおもに雇用されているのは，労働集約型産業の不熟練・半熟練作業にである。雇用全体の女性比率は1970－95年で31%から34%にしか増加していないが，製造業の雇用の女性比率は1957年の17%から1970 年の29%，1995年の43%まで伸びている。

マレーシアの製造業において，中心的な雇用者は，輸出指向型業種の多国籍企業であり，その労働集約的工程の生産ラインのための不熟練・半熟練労働者として大量の女性を雇用している。電子・電機産業や繊維・衣服産業などの部門は，その労働者の7－9割が女性である。

電子産業などの多国籍企業が女性労働者を選好する理由は，①女性の賃金水準が低い，②新卒が豊富に供給される，③就業年数が比較的短く雇用調整が容易，という労働市場での条件のほかに，④女性は指先が器用，⑤視力が良い，⑥辛抱強い，⑦従順，などの女性労働特有とされる性質である（吉村真子1998，第4章; Grossman, 1979; Hancock, 1983; Lim, 1978; Lim, 1990; Ong, 1983; Ong, 1987)。

とくに④の点についてマレーシア政府は，1970年代初めの外国企業の投資奨励パンフレットで，「マレーシアの女性の指先は器用で電子産業のアセンブリ工程に向いている」と宣伝している。しかし，「女性は器用」とよくいわれるが，この「器用な指先」は生物学的な遺伝に由来するものではない。女性が器用なのは，女性の役割に適しているとみなされる仕事について，母親や女の親族によって幼児期から受けてきた訓練の結果である。女性は「家事労働」として社会的に目に見えな

いプライヴェートな形で訓練されているのであり，その意味では雇用時において決して不熟練・半熟練ではない（Elson and Peason, 1986）。しかも，就職前にすでに私的領域で訓練されているがために，企業に就職した後の訓練期間が短くて済むのである。こうして私的領域で形成された「技術」や「熟練」は家事サーヴィスと同じく支払いの対象とされないため，労働市場に参入してきた女性労働者は低賃金の不熟練労働として雇用されている。

また⑥や⑦についても，そうした特徴は女性の「特質」として社会で期待され，形成されたものである。女性が「辛抱強い」ために長時間単調な仕事に耐え，「従順」であるために厳しい管理の下でも働くということからいえば，企業にとって女性は扱いやすい労働者である。すなわち女性労働こそが，生産性が高く，効率的で，管理しやすい，しかも安上がりの，資本にとって有利な労働力なのである。

工業化は，労働力構造のジェンダー状況にさまざまなインパクトを与えている。金属，ゴム加工，自動車，木材・家具といった輸入代替型業種や資源加工型業種，港湾サーヴィスなどは，その労働力の7－8割が男性である。他方，電子・電機，繊維・衣服といった輸出指向型業種は，その労働力の7－9割が女性である。しかし，こうした業種による性分業がありながらも，各業種や各企業の職階レヴェルの上層は男性が独占している。高所得の管理・経営職や技術・専門職の8割以上が男性であり，他方，女性は事務職や生産工などの仕事の方が多い。また職階レベルの性差による分断に加えて，同じ職種でも男性と女性では賃金格差があり，男女の所得格差をいっそう大きくしていることがあげられよう（吉村真子 1998，40頁）。

このように，男性であるか女性であるかによって労働市場への参入の仕方，就業の形態，産業や業種，職種・職階，賃金など，さまざまな面で違いが見られ，労働市場における性分業は明確な形で表れている。

さらには，新経済政策（New Economic Policy, 1971－90）はマレー系住民の近代部門への参入を奨励し，農村部のマレー女性が都市部の製造業などに大量に移動した。電子・電機産業の労働力の8割は女性であり，その生産工のほとんどが農村部出身のマレー系の若年女性である。人口に占めるマレー系比率が50%であることから考えると，このマレー系の集中の度合いは，政府のマレー系優先を背景としているといえるだろう。同時に，マレーシアのマレー系はイスラム教徒（ムスリム）である。イスラム社会の多くが女性は家庭にいるべきとしているが，マレーシア政府は労働力不足対策から女性の労働参加を奨励しており，政府の奨励政策がなければ，彼女たちは家にいたかもしれない集団である。

また工場での就労は，近代的な工場内で生産ラインの単純作業に従事するのであり，農村出身の若いマレー女性にとって，それまでの生活体験からしてきわめて異質なものである。さらには工場での就労や自分の収入による生活や消費など，近代的な労働環境や西洋的な消費文化による生活の変化は，コミュニティの伝統的なイスラム文化とのあつれきを招くこともあった。そうした変化を背景として，伝統的に強固な家族のつながりの弱体化や女性工場労働者のネガティブ・イメージ（売春，集団ヒステリー，など）が社会問題として指摘されたりもした。

経済発展にともない，マレーシア社会は著しく変化してきた。女性の雇用の増加は，女性の教育水準の向上，晩婚化，少子化，家事労働の減少，キャリア形成指向の増加，消費文化，都市型の生活スタイル指向，生活コストの上昇といった社会の変化を背景としている。こうした社会や価値の変化が，女性の就労意欲を高め，とくに政府の奨励策はそれを後押しする形となっている。

多くの女性が働くようになるにつれて，生活スタイルも変わった。女性の社会進出にともなって，しだいに外国人家政婦の需要が伸びてきた。しかし，家政婦など外国人労働者の雇用の増加は，文化衝突，差別・偏見，虐待など新たな社会問題も生んでいる。

今日，女性はマレーシアのあらゆる面に進出している。工場労働者に限らず，さまざまな部門・職種，そして専門職，起業家，政治家などでも，女性の活躍が指摘されている。内閣には，3名の女性の大臣がおり，2001年には女性家族省も設立された。こうした女性の各方面での活躍は，マス・メディアにも反映しているはずである。

(2)　メディアにおけるジェンダー・イメージ：マレーシアのケース

(a)　TV

かつて，TVに出てくる女性は「お飾り」に過ぎなかった。音楽番組やクイズ番組の司会は決まって男性で，その傍らには女性のアシスタントがきれいな服を着て笑顔で立ち，意見も質問もしない。ニュース番組は，男性がニュースを読み，女性は天気予報を担当している程度であった。

今日，マレーシア人は一日4−6時間，TVを視聴しているといわれており，TVが伝える女性のイメージは，視聴者の印象に大きく影響している。現在のTV番組においては，女性はいろいろな番組でさまざまな仕事を担当しており，女性が報道番組の司会，リポーター，娯楽番組の司会を担当することはなにも珍しいことで

はなくなった。それでもなお，女性向けのTV番組はいろいろとある。具体的には，*Dunia Fesyen*（「ファッションの世界」），*Wanita Hari Ini*（「今日の女性」），*Rampai Selera*（「さまざまな嗜好」），*Wajah-Wajah*（「ルックス」）など，ファッション，化粧，料理，家事・インテリア，育児など，女性のおもな役割は母親であり，妻であるとするものである。

今日，働く女性は数多く，専門職の女性も多い。そうした女性がドラマで描かれることも多くなった。マレーシアのTVは，米国，シンガポール，香港，日本，インドなどのTVドラマを流している。もっとも人気が高いのは，米国の人気ドラマシリーズである。「アリーMyラブ（*Ally McBeal*）」，「ER」，「ダーマ＆グレッグ（*Dharma and Greg*）」など，描かれる女性はおもに弁護士や医師など専門職でキャリアを積む魅力的な女性（ダーマはコミュニティセンターでヨガを教えるヒッピー風の自由な女性で，夫は弁護士だが）で，仕事や恋愛や友情や家族の問題に直面して，自分なりに解決していく。ここで描かれる女性像は，（アリーのスカートが弁護士にしては短すぎるとしても）女性の視聴者に支持されている。

外国のドラマが概して「新しい女性」を描いているのに対して，マレーシアの現地のドラマは「古い女性」を依然として描きがちである。綿々と悩んでいたり，優柔不断だったり，ヒステリックだったり，のろまだったり，うるさかったり，感情的だったり，退廃的で男好きだったり，いわゆる昔からのドラマに出てくるような女性の登場人物がけっこう多い。そして，家族の問題や子どもの虐待，子どもを捨てたり，といった描き方もある。女性の登場人物は，男性問題（男性との不道徳な付き合い）で責められ(Siti Hasmah, 1997)，よき妻，よき母親であることが求められ，道を外れると報いを受けるのである。

2001年9月に放映されたマレー（ムラユ語）のドラマでは，若い女性が親子と知らずに若い男性とその父親である年配の男性と付き合い，後に父親の方と結婚する。三人ともに傷つきながらも，彼女は年配の男の二番目の妻となり，子どもの出産時に死亡する。彼女の死後，年配の男は，今度は息子の昔の恋人を三番目の妻とする。男の一番目の妻は健在で，夫が若い女性（しかも息子の元恋人）を妻に迎える状況に苦しみ，悩むが，堪え忍ぶ。夫は，若い第三の妻と息子との関係を疑い，殴るが，許しを請い，彼女は，イスラム教徒の妻だからと夫を許し，受け入れる。

このドラマは，ロンドン・ロケもおこなった，TV局としても力を入れたスペシャル・ドラマであったが，あらすじや人物の描き方は陳腐なものであった。第三の妻の相談にのる弁護士は女性であったが，おもな女性の登場人物は典型的な古いタ

イプの女性であった。第一の妻は，自己犠牲的で，黙って試練に耐える。第二の妻は，親子と同時に付き合った過去の報いのように，出産時に死んでしまう。そして第三の妻は，よき妻として夫の暴力を許し，家に残る。

イスラム国として，マレーシアのTVには倫理コードがあり，セックスやヌード，キスの描写なども規制の対象となる[5]。

インドの映画やMTVといった音楽のヴィデオ・クリップも，セクシーな衣装や振り付けなどが，しばしば批判の対象となっている。インドの映画や音楽番組がインド系以外にも人気があるのは，華やかな歌と踊りだけでなく，そうしたセクシーな要素が含まれるからとする指摘もある。そのため，TV局が一週間に放映するインド映画の本数が制限されたりするようなことにもなった。

シンガポールのドラマ番組も放映されている。人気コメディは，「プア・チューカン（*Pua Chu Kan*）」と「一つ屋根の下（*Under One Roof*）」で，同じTV制作者が作っているシンガポールのヒット・コメディである。ドラマは，工務店を経営するシンガポール人プア・チューカンとその家族のどたばたを，シンガポールなまりの英語「シングリッシュ（Singlish）」で描いている。女性の登場人物は，主婦や働く女性など，さまざまで，男性も女性も同様に，どたばたやジョークをやりとりする。

日本のドラマもマレーシアで人気である。日本の大ヒット「おしん」は東南アジアでも人気だった。「おしん」は，野菜の行商から身を起こしたヤオハンの創立者の女性をモデルとしており，日本の戦後の再興と主人公の苦難と成功の物語を描いた。苦難と辛抱，努力と成功という，典型的な成功物語であり，地道に努力して突き進む女性の企業家が主人公であった。

また90年代以降の若者向けの人気ドラマもマレーシアで放映された。日本のヒット作「ロングバケーション」[6]，「愛しているといってくれ」，「ビューティフルライフ」[7]などの恋愛ドラマである。登場人物の職業の設定はモデル，ピアニスト，画家，ヘア・アーティストなど，一般の若者があこがれるような設定であるが，女性の描き方は，スーパーウーマンでも伝統的な古いタイプでもなく，いまどきの若者が悩みそうなことで悩むリアルなものであった。こうした現代的な女性が描かれる日本のドラマが海外で放映されるのは悪いことではない。

東南アジアや東アジアでは，日本のファッション雑誌やポピュラー音楽，日本食なども人気である。日本は，同じアジアだけに，先進工業国としての経済の発展や進んだファッションなどがあこがれの対象で，しかも，欧米よりも身近で，そのト

レンドを取り入れたり真似しやすいと思われているのだろう。

（b） 映画

マレーシアでは，さまざまな映画が公開されている。地元のマレー映画のほか，米国，香港，インド，インドネシアなどの映画が輸入され，映画館で上映されている。しかし，地方都市の映画館では，メジャーなハリウッド映画かマレー映画ぐらいしか上映されておらず，ヨーロッパ映画や日本映画を見るとしたら，首都クアラ・ルンプルのメガ・モール「ミッド・ヴァリー」の18スクリーンのシネマ・コンプレックス（複合型映画館）ぐらいである。ただし町中では，さまざまな映画ソフトがヴィデオ・テープやDVD/VCD（Video CD）などで手軽に入手できる。

ハリウッド映画で描かれる女性像は，欧米の女性運動やフェミニズムの動向を反映している。有名な007のジェームズ・ボンド映画のシリーズにしても，例外ではない。セクシーで頭はからっぽというボンド・ガールの描かれ方は，長年のフェミニズムの非難の的であったが，1990年代末になると，ジェームズ・ボンドのパートナーとして共に敵に向かっていく強い女性へと変わっていった。しかも，マレーシア人のミッシェル・ヨーが演じたことでも話題になった。

マレーシアで人気の映画は，ハリウッドの大作である。そして，米国映画とジャッキー・チェンの香港映画以外，すなわちマレー，インドネシア，香港，インド（おもにタミル）といった映画は，観客はエスニック（民族）集団別に分かれてしまう。

しかしながら，日本の若者が日本映画をあまり観に行かないように，マレー（シア）語の映画はマレー系の若者にもあまり人気がない。例外は，マレーシア映画誕生期の大御所P.ラムリーの映画であり，クラシックとしてTVでも繰り返し放映されている。それが，1990年代にはいって人気歌手（AwieやErra Fazira）を主演にした恋愛ものの「*Sembile*」がそのサウンド・トラックのカセットとともに大ヒットし，その後，続編の「*Sembile* 2」や続々編「*Trajedi October*」も良い興行成績を収めた。これらの映画は，マレー系の若者に人気のある歌手を主演におき，洒落たレストランやディスコティーク，ライブハウス，ブランドの服や車やオートバイといった都会の風俗を描いた点で，マレーシアの「トレンディ映画」ということができよう。これはマレー系の中間層とその消費文化の台頭と並行している[8)]。

しかしながら，そうした舞台設定がきわめて現代的であるのに対して，登場人物の描かれ方はきわめて伝統的である。主人公の男性（Awie）が，幼なじみの古典

的なタイプの女性（Erra）と，新しく出会ったモダンなタイプの女性（Ziana Zain）の間で揺れ動き，結局，幼なじみの女性の元に戻っていき，待っていた彼女が受け入れる。いうまでもなく，古来からある三角関係の物語である。

香港映画は，ジャッキー・チェンや香港ノワール（ギャング映画）のアクション物か恋愛物である。前者では，つねに男性の主人公が美しいヒロインを守る。後者のラブ・コメディでは，女性があわてんぼうで，直情径行気味で，男性の方が落ち着いていて女性を見守るパタンもあるが，逆の設定の場合もある。

インド映画は，もっと典型的である。マッチョなヒーローが，美しいヒロインを救い出す古典的なパタンが繰り返される。男性の俳優は体格も顔つきもさまざまだが，女性の方は，かならず若くて美人である。母親役や祖母役も若い女性が老け役で演じることが多い。インドでは，ちょっと前までは，ふくよかなタイプが美人とされたが，細身の女性を使うハリウッド映画の影響で，いまやボリウッド映画（ボンベイとハリウッドをかけた造語でインド映画のこと）の女性もスリムになってきている。そして次第に男性の方にもその影響はあらわれており，スリムで，ハンサムで筋肉質の男性の俳優も人気が出てきているという流行もあるようである。

（以下，次号に続く）

注

1) 当論文は，吉村真子と相良剛による 1997－2003 年の共同研究の成果の一部であり，1998－2001 年にマレーシアでジャーナリストへの面接調査，資料収集などの共同調査をおこない，その分析結果をまとめ，研究論文として共同して執筆したものである。
2) 吉村真子は法政大学社会学部教授であり，マレーシアの経済発展と社会について研究を進めている。相良剛（出版社勤務）は，ロンドン大学 LSE にて修士号（開発研究）を取得し，アジアにおける開発とマス・メディアについて研究している。
3) 1970 年代以前の女性の雇用は，おもに農業部門，とくにゴム・エステートにおけるタッピング作業においてであった。
4) 1990 年において，女性の全雇用に占める専門・技術職の比率は 9.4%であり，男性の 6.4%を上回っているが，その多くは教師や看護師といった，伝統的に「女性向け」とされる職である。
5) セックスやヌードの場面はカットされている。最近は，軽いキスの場面は登場しているが，以前は，挨拶で夫婦がキスする場面もカットされたりもしていた。
6) テレビドラマ「ロング・バケーション」は，2001 年にマレーシアで放映された。同

ドラマは，婚約者に逃げられたモデル（山口智子）と年下のピアニスト（木村拓哉）のラブ・ストーリーである。主人公の職業や話の設定は非現実的だが，ヒロインの描かれ方は，決してスーパーウーマンでなく，年齢の差を乗り越えて二人は結ばれる。

7) 近年の日本の人気ドラマのいくつかは，主人公が障害者で，困難を乗り越えて結ばれる恋愛物語である。たとえば，「愛しているといってくれ」（Say I Love You）の主人公は，聴覚障害者の画家（豊川悦司）と俳優志望の女性（常磐貴子）であり，「ビューティフルライフ」（Beautiful Life）の主人公は車椅子の女性（常磐貴子）とヘア・アーティスト（木村拓哉）である。この二つのドラマは同じ脚本家（北川江吏子）によって書かれたものだが，執筆にあたって障害者の日常生活や悩みについてリサーチしている。双方とも，障害者問題について無知な健常者の彼女／彼が障害者の彼／彼女と出会い，付き合っていく中で，さまざまなことを知り，学んでいく過程が描かれる。最初のドラマ「愛しているといってくれ」は，女性の描き方がかなり単純で，何も知らない世間知らずの若い女性であった。後の「ビューティフルライフ」では，身体障害者で車椅子の生活ではあるが，生きることにも積極的な女性として描かれている。

8) これは，マレー系の新たなる消費文化と都市型の生活スタイルを示している。それゆえに，この映画はマレー系の低所得層に人気があるとも言われている。

参考文献

1 新聞 Newspaper

A) 英語新聞 English-language newspapers

Business Times

New Straits Times

The Malay Mails

The Star

The Sun

B) マレーシア（ムラユ）語新聞 Bahasa Malaysia (Malay)-language newspaper

Berita Harian

Harian Metro

Utusan Malaysia

Utusan Melayu

C) 華語新聞 Chinese-language newspaper

China Press

Guan Ming Daily

Kwong Wah Yit Poh & Penang Sin Poe

Nanyang Siang Pau

Sin Chew Jit Poh

D) タミル語新聞 Tamil-language newspaper

Malaysia Nanban

Tamil Nesan

Thina Murasu

2 資料

Materials at the Workshop on Effective Reporting on Women and Women's Issues in the Print Media. Organised by Media Commission, National Council of Women's Organisations Malaysia, Kuala Lumpur, 23-24 March 2000.

3 研究論文など

Ackerman, S. E. 1980. Cultural Process in Malaysian Industrialisation. Ph. D. thesis, UC San Diego.

Adnan Hashim. 1994. *Advertising in Malaysia*. Petaling Jaya : Pelanduk Publications.

Aishah Ali. 1997. Changing Media Portrayal of Women : How Women Editors Can Play a Role. Paper presented at the International Seminar on Women in the Media : Challenges and Opportunities for Asian in the Next Millennium, Bangi, 12-14 November 1997.

Asiah Sarji and Faridah Ibrahim. 1997. Research Trends on Women and the Media in Malaysia : A Preliminary Investigation. Paper presented at the International Seminar on Women in the Media : Challenges and Opportunities for Asian in the Next Millennium, Bangi, 12-14 November 1997.

Brown, Mary Ellen, ed. 1990. *Television and Women*'s Culture : The Politics of the Popular. London : Sage.

Carter, Cynthia, Gill Branston and Stuart Allan. 1998. Setting New(s) Agendas : An Introduction. In *News, Gender and Power*. C.Carter et al. (eds.), 1-9, London : Routledge.

Carter, Cynthia, Gill Branston and Stuart Allan eds. 1998. *News, Gender and Power*. London : Routledge.

Carter, Kathryn and Carole Spitzack, eds. 1989. *Doing Research on Women*'s Communication : Perspectives on Theory and Method. Norwood, N. J. : Ablex.

Ceulemans, Mieke and Guido Fauconnier. 1979. *Mass Media : The Image, Role, and Social Conditions of Women : A Collection and Analysis of Research Materials*. Paris : UNESCO.

Consumers' Association of Penang. 1982. *Abuse of Women in the Media.* Penang: Consumers' Association of Penang.

Consumers' Association of Penang. 1986. *Selling Dreams: How Advertising Misleads Us.* Penang: Consumers' Association of Penang.

Daly, Mary. 1984. *Pure Lust: Elemental Feminist Philosophy.* Boston: Beacon Press.

Elson, D. ad R.Pearson. 1986. Nimble Fingers Make Cheap Workers. In *Feminist Review* (October).

Faridah Ibrahim. 1990. Wanitawan dalam Pengurusan Bilik Berita: Matlamat dan Pencapaian. *Jurnal Komunikasi,* 6: 43-50.

Faridah Ibrahim dan Rahmah Hashim. 1996. Images of Women and Human Rights: A Content Analysis of Malaysian Media during the Fourth World Conference on Women in Beijing. Paper presented at the IAMCR Conference, Sydney, 19-22 August 1996.

Fuentes, A. and B. Ehrenreich. 1983. *Women in the Global Factory.* Boston.

Francis Loh Kok Wah and Mustafa K. Anuar. 1996. The Press in the Early 1990's: Corporatisation, Technological Innovation and the Middle Class. In *Malaysia: Critical Perspectives.* Mohammad Ikmal Said and Zahid Emby (eds.), Kuala Lumpur: Persatuan Sains Social Malaysia.

Gallagher, Margaret. 1981. U*nequal Opportunities: The Case of Women and the Media.* Paris: UNESCO.

Gallagher, M. 1990. 1995. *An Unfinished Story: Gender Patterns in Media Emplo*yment. Paris: UNESCO Reports on Mass Communication, 110.

Gamman, Lorraine and Margaret Marshmount. 1989. The Female Gaze. Seattle: Comet Press.

Gramsci, Antonio. 1971. *Selections from Prison Notebooks.* Eds and trans. Quintin Hoare and Geoffrey Nowell Smith. New York: International Publishers

Grossman, R. 1979. Women's Place in the Integral Circuit. In *Special Joint Issue of Southeast Asian Chronicl: 66 and Pacific Research: 9* (5-6).

Hancock, Mary. 1983. Transnational Production and Women Workers. In *One Way Ticket: Migration and Female Labour.* A.Phizacklea (ed.). London.

Heuvel, J.V. and E.E. Dennis. 1993. *The Upholding Lotus: East Asia*'s Changing Media. New York: The Freedom Forum Media Studies Center.

Irene Fernandez. 1990. How the Media Treats Women. In *Media Watch: The Use and Abuse of the Malaysian Press.* Kua Kia Soong (ed.). Kuala Lumpur: The Resource & Research Centre, Selangor Chinese Assembly Hall.

Kua Kia Soong ed. 1990. *Media Watch : The Use and Abuse of the Malaysian Press.* Kuala Lumpur : The Resource & Research Centre, Selangor Chinese Assembly Hall.

Lim, Linda Y.C. 1978. Multinational Firms and Manufacturing for Export in Developing Countries : The Case of the Electronics Industry in Malaysia and Singapore. PhD Thesis, Ann Arbor : The University of Michigan.

————. 1989. Women and Multinationals (unpublished paper, March).

————. 1990. Women's Work in Export Factories. In *Persistent Inequalities.* I. inker (ed.). New York.

Lochead, J. 1988. Retrenchment in a Malaysian Free Trade Zone. In *Daughters in Industry..* Heyzer (ed.). Kuala Lumpur : APDC.

Malaysia. 1991. *The Second Outline Perspective Plan 1991*-2000, Kuala Lumpur : Percetakan Nasional Malaysia Bhd.

————. 2001. *Eighth Malaysian Plan 2001*-2005, Kuala Lumpur : Percetakan Nasional Malaysia Bhd.

Mary Assunta Kolandai and Mohd Azmi Abdul Hamid. 1997. Women in the Media: Public Opinion and Activism. Paper presented at the International Seminar on Women in the Media : Challenges and Opportunities for Asian in the Next Millennium, Bangi, 12-14 November 1997.

Ministry of Finance Malaysia. *Economic Report, various issue.* Kuala Lumpur : Percetakan Nasional Malaysia Bhd.

Ng Poh Tip. 1997 Media Practice and Management. Paper presented at the International Seminar on Women in the Media : Challenges and Opportunities for Asian in the Next Millennium, Bangi, 12-14 November 1997.

Ong, Aihwa. 1983. Global Industries and Malay Peasants in Peninsular Malaysia. In *Women, Men and the International Division of Labour.* Nash (ed.). Albany : State University of New York Press.

————. 1987. *Spirits of Resistance and Capitalist Discipline : Factory Women in Malaysia.* Albany : State University of New York Press.

Press Guide : Press Information Guide Book, various issues. Kuala Lumpur : Whiteknight Communications.

Pribram, Deidre ed. 1988. *Female Spectators : Looking at Film and Television.* New York : Verso.

Rahmah Hashim dan Fuziah Kartini Hassan Basri. 1996. *Wanita dalam Organisasi Media Cetak.* Bangi : Universiti Kebangsaan Malaysia.

Rakow, Lana F. ed. 1992. *Women Making Meaning: New Feminist Directions in Communication.* New York: Routledge.

Rush, Ramona R. and Donna Allen, eds. 1989. *Communications at the Crossroads: The Gender Gap Connection.* Norwood, N. J.: Ablex.

Samsudin A. Rahim et al. 1994. *Wanita dan Media Cetak.* Bangi: Universiti Kebangsaan Malaysia.

Siti Hasmah bte Haji Mohd Ali. 1997. Speech on Women and the Media at the International Seminar on Women in the Media: Challenges and Opportunities for Asian in the Next Millennium, Bangi, 12-14 November 1997.

Women's Aid Organisation (WAO). 2000. Foreign Domestic Worker Abuse in Malaysia: A

Position Paper by WAO. Kuala Lumpur: WAO (unpublished).

吉村真子　1998.『マレーシアの経済発展と労働力構造：エスニシティ，ジェンダー，ナショナリティ』法政大学出版局。

Zainuddin Maidin. 2001. Wanita dan Media. Kertaskerja di Wanita dan Mashyarakat -K: Peranan, Sumbangan dan Cabaran. Cititel, Kuala Lumpur, 14 September 2001.

*　　*

英文目次と要約　English Contents and Abstract

Mass Media and the Production of Meanings: Gender in Malaysia

By YOSHIMURA Mako and SAGARA Go

CONTENT

Introduction

1 Culture, Mass Media and the Production of Meanings

2 Women and Images of Gender in the Media

(1) Women in Malaysia

(2) Images of Gender in the Media: The Malaysian Case

(a) TV

(b) Films

(c) Magazines

(d) Advertisements

3 Newspapers and Gender in Malaysia

(1) Newspapers in Malaysia

(2) Participation of Women and the Management in the Press
(3) Women's Sections
(4) Newspaper Coverage of Women's Activities
(5) Cases of Effective Reporting on Women
(6) Treatment of Women Issues in the Newspapers
Conclusion
Footnotes
References

ABSTRACT

This paper discusses the Mass Media and Gender in Malaysia.

While Allen and Rush (1989), Brown (1990), Carter and Spitzack (1989), Daly (1984), Gamman and Marshmount (1989) and Pribram (1988) have delved deeply into communications in the west and propounded various feminist theories for their observations, not much has been done on the subject in Malaysia.

The media play a central ideological role in that their practices and products are both a source and confirmation of the structural inequality of women in society. Being subordinate to men is a role generally accepted by women as a *fait accompli* in life (possibly, as Gramsci wrote in *Prison Notebooks,* as a 'subordinate group'). In the re-production of meanings in society, we cannot ignore the role of the media. Indeed, their role should be discussed with that of culture in the 'process of production of meanings' (Gallagher, 1981).

Malaysia is a developing country that has experienced rapid economic growth since the 1980's. Although the country is majority Muslim, women are encouraged to work, in contrast to many other Muslim countries which prefer their women at home. In Malaysia, there are female ministers who are often in the news. In this society, it is important to re-evaluate the mass media and its role with respect to gender.

The paper discusses the role of the Malaysian mass media and the images of gender in them. It briefly deals with the cases of TV, Films, Magazines, Advertisements, etc. And it examines the newspapers and gender in Malaysia, newspapers in Malaysia, participation of women (as journalists, newspaper staff, etc.) and management, 'Women's Sections' in newspapers, newspaper coverage of women's activities and images of women, cases of effective reporting of women, and the treatment of gender in the newspapers.

The discussion includes the creation of gender images in 'the production of messages', as well as the role of the mass media in gender issues. It also analyses the results of a content analysis of newspaper articles in 1999-2001, including interviews with journalists mainly from the newspapers.

謝辞　Acknowledgements

筆者は，マレーシアにおける調査・研究にあたり，下記のジャーナリスト，研究者，友人たち，また研究機関の協力と支援を得た。ここに深く感謝したい。

The authors would like to express their gratitude to the following persons and institutes for their warm-hearted support and corporation during their research in Malaysia:

Ms. Aishah Ali, New Straits Times; Mr. Azman Ujang, Pertubuhan Berita Nasional Malaysia (BERNAMA); Ms. Eu Hooi Khaw, New Straits Times; Mr. Foo Ah Hiang, Universiti Malaya; Ms. Geetha Govindasamy, Universiti Malaya; Dr. Hou Kok Chung, Universiti Malaya; Ms. Ivy N. Josiah, Women's Aid Organisation (WAO); Ms. Joceline Tan; Datuk Johan Jaaffar; Prof. Jomo K.S., Universiti Malaya; Ms. Lai Suat Yan, Universiti Malaya; Dr. Patricia Martinez, Universiti Malaya; Ms. Sheila, The Star; Ms. Saliha Hassan, Universiti Kebangsaan Malaysia; Dr. Shanti Thambiah, Universiti Malaya; Mr. Steven Gan, Malaysiakini; Ms. Sudandara S. Nathan, Universiti Malaya; Ms. Zamzam Omar, Berita Harian (in alphabetical order), etc.

Faculty of Economics and Administration, Universiti Malaya; Universiti Malaya Library; HAWA Library, etc.